竹定商店

TAKESADA BAMBOO ARTISANS
KYOTO SINCE 1877

Catalog & Concept Book Vol. 1

Catalog & Concept Book Vol. 1

目次

目次 ―― 2

隈 研吾 ―むすめきの凝集― ―― 4

時を経ても ―― 6

尽きない魅力 ―― 24

会社概要 ―― 32

心 ―― 34

質 ―― 36

暦 ―― 38

製品 ―― 40

銘竹 ―― 42

平割 ―― 48

柾割 ―― 52

竹パネル ―― 54

平割 ―― 56

半割 ―― 58

ひしぎ ―― 60

銘竹貼物 ―― 62

編み ―― 64

犬矢来 ―― 66

竹垣 ―― 68

大垣 ―― 70

袖垣 ―― 72

加工技術 ―― 74

隈 研吾

Kuma Kengo

― さざめきの凝集 ―

その場所にある素材を使って作る。
これが人間にとって一番心地の良い空間を作ることにつながると考えている。

場所に溶け込み、そこに住まう人の生活に馴染んでゆく建築、世界中の様々な場所を相手に、一対一での環境との対話を楽しむように建築をつくっている。

自然の素材を使うということは、とても頭を使う営みである。
工業製品には、一つ一つの素材の個体差を出来るだけなくしていくために均一化が施されているが、自然素材に関してそうはいかない。
同じ名前の木や竹でも、場所が異なれば、まったく異なるものになってしまうことさえある。
それくらい素材というものは場所というものと分かちがたく結びついている。

われわれは知っているはずである。
森の中・藪の中を歩き進むとき、手に取った枝や樹皮のざらつき・しなりぐあいの一つ一つの表情が、手を伝い情報として体に入り込み、場所を理解するヒントになることを。

自然素材を使い建築を作ることは、素材を通して場所とつながることだと思う。

僕は幼少期に、家の裏手にある山中の竹林でよく遊んでいた。一歩足を踏み入れるとザワザワとした独特の葉擦れのノイズの中で、海の中での波のうねりのような独特の心地よさに包まれる。

竹という素材は強く直線的な素材でありながらも、自然の生物特有のゆるさを持った撓りのある素材である。これまでにも竹は、日本の多くの建築家を魅了してきたが、僕はこの両義性に竹の最大の価値を見ている。

時として人は強く自立した存在として、また時には何かにもたれながら協同する生き物である。竹はそんな人間との関係を、しなりと強さでインタラクティブに受け入れる。

京都・桂離宮の周囲を囲う竹で出来た垣根「桂垣」が放つ、威容にも穏やかな環境との結ばれ方は、その良き現れである。

自然に身を任せることが、人々の記憶に残るような個性的な建築を生む。そうすれば世界に再び、豊かな多様性をもたらせるはずである。

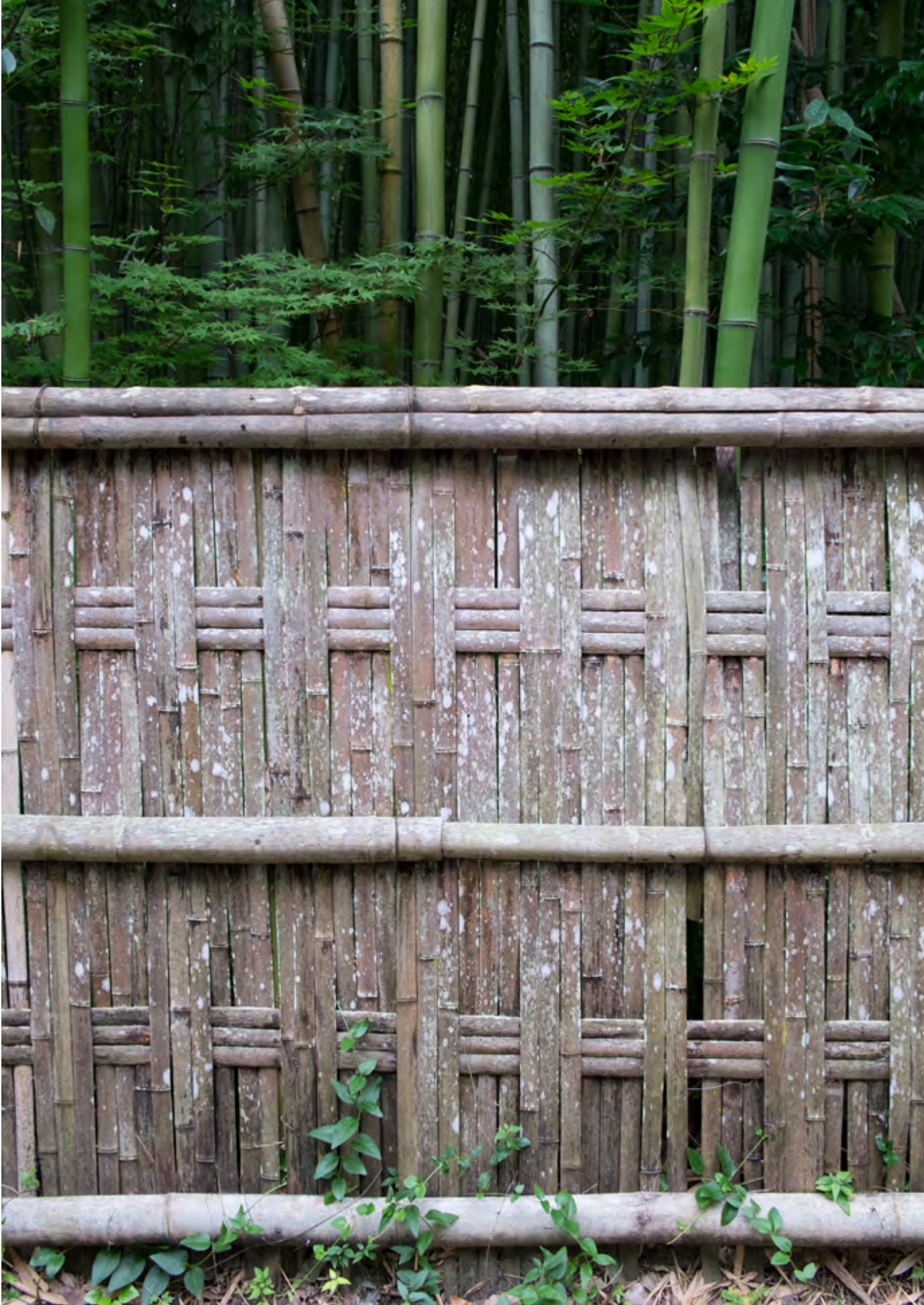
Photo © J.C. Carbonne

時を経ても

平安時代から続く竹文化
千年の時を経ても飽きさせない魅力が竹にはあります
そのほんの一部を紹介します
魅力溢れる竹の世界を　どうぞお愉しみください

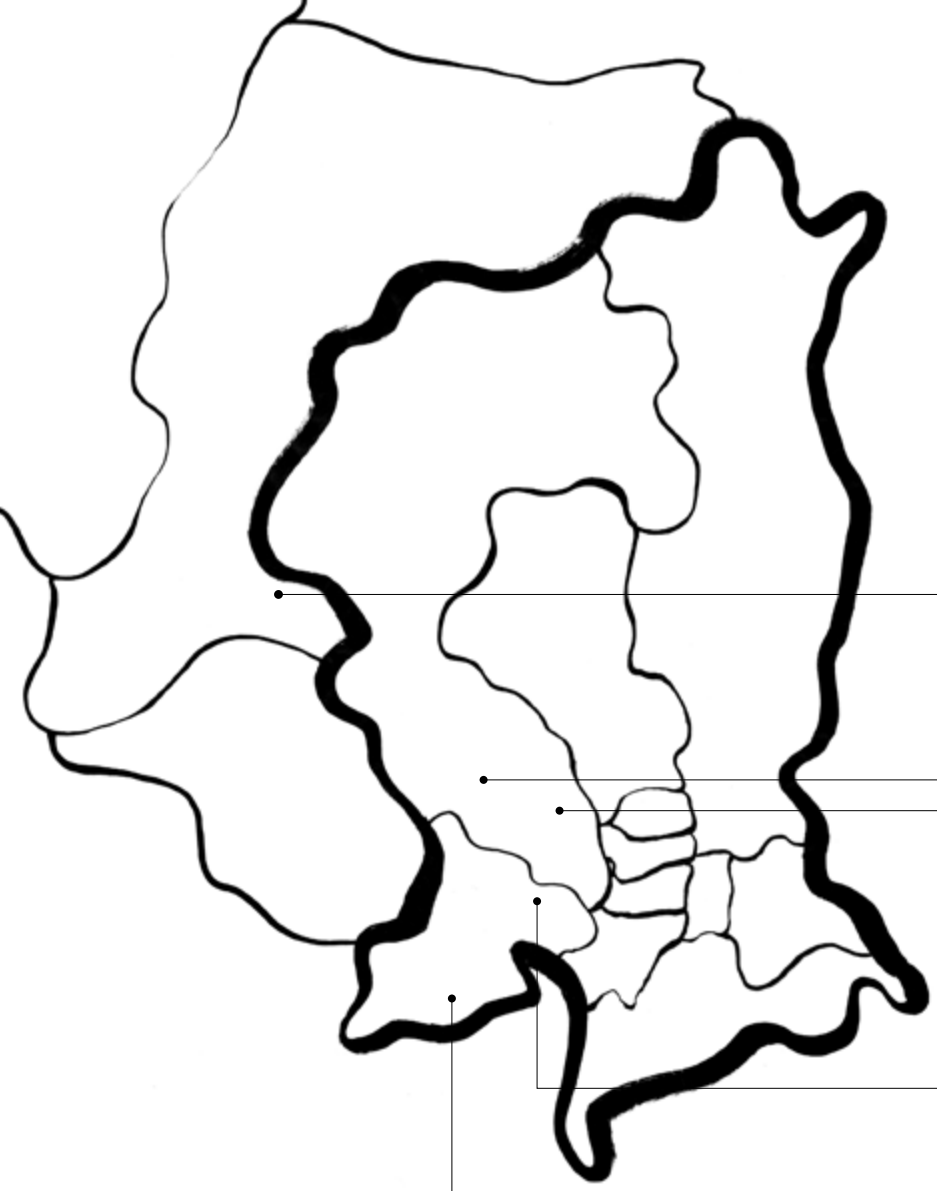
尽きない魅力

例えば青竹は　陽の光を浴びて白っぽく
例えば白竹は　数十年の時を経て上品な茶褐色に
例えば煤竹は　百年もの間　煙に燻されることで　光沢のある煤色に
竹は時とともに表情を変えながら　人々を魅了し続けます



会社概要

京都の竹は良質で、
古来より建材・造園資材として重宝されてきました。
特に経年による色の移り変わりが美しく、
世界遺産をはじめ多くの著名建造物に用いられています。
当社は、先人より受け継いだこの財産を次世代に継なぐべく、
敬意と愛情を持って管理しています。



八木町
真竹七ヶ所

嵯峨野
第二工場
真竹四ヶ所
孟宗竹二ヶ所

太秦
本社兼第一工場

山田
孟宗竹五ヶ所

大原野
孟宗竹十ヶ所

社名――株式会社 竹定商店
代表者名――井上定信
創業――明治十年
設立――昭和四十九年
資本金――一千万円

本社兼第一工場
〒六一六―八一六四
京都府京都市右京区太秦桂木町六
TEL――075-861-1712（代）
FAX――075-861-0200

第二工場
京都府京都市右京区嵯峨野々宮町四

心

古来より日本人は竹と密接に関わり合って生きてきました。日本家屋の内外装材や日用品としての活用をはじめ、茶道や庭園など日本独自の文化においても竹は不可欠な存在です。

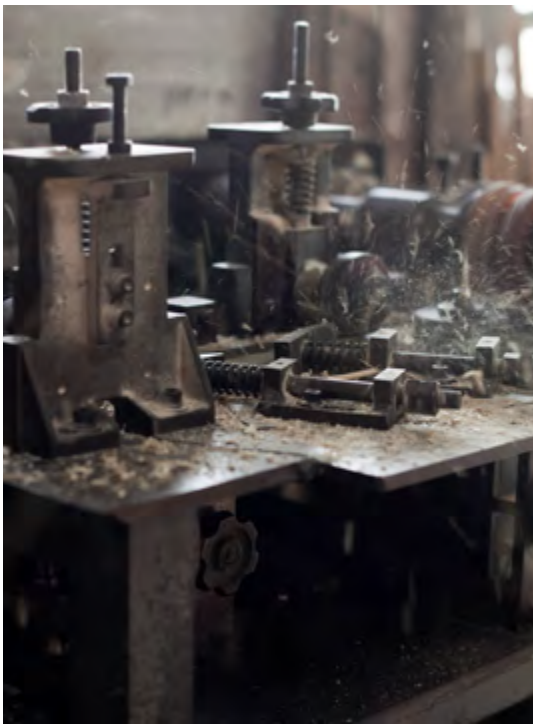
独特のしなやかさ、強さ、繊細さ、滑沢さを合わせ持つ自然の竹は、さらに匠の技によって変幻自在に、私たちを魅了する様々な竹製品へと昇華されます。

自然の産物である竹は、一点一点の違いや経年による変色、割れやすさなど、私たち人間の思い通りにはならない扱いにくい物かもしれません。

それでもなお、理屈を超えた魅力に一四〇年もの間、取り憑かれ続けている私達は、この不思議で奥深い竹の魅力を知り、伝え、後世に伝承することを使命と感じています。

そのためにこれからも歴史に学び、竹の伝統文化やものづくり技術を存続させるとともに、竹の未知の可能性を発見すべく新しい挑戦もつづけていきます。

質



一貫体制

竹の育成から加工・販売まで自社で一貫して手がけることにより、質の高い製品を適正な価格で提供いたします。お客さまのご予算や様々な条件に応じた提案をさせていただきご要望に合った空間づくりのお手伝いをいたします。

機械設備

様々な加工用途に応じた大型・小型機械類を保有し、特に平割加工では0.1ミリ単位の精度で製品を作りあげることができます。

熟練技術

竹を熟知した職人集団による丁寧な仕事で多様な竹製品を作り上げます。
各々の竹の良さを引き出すため、常に竹と対話しながら熟練技を発揮しています。

品質管理

愛情を持って管理された京都の竹林で育てられた、確かな品質の竹材を保証いたします。
タケノコの頃より見守ってきた竹を、各々の個性やクセを見極めながら使用します。
また、加工時に発生する竹の端材は燃料として、さらにその灰は竹林の肥料としてリサイクルしています。

暦

創業以来、竹定商店は社会環境の変化、時代の要請に応じて常に変化してきました。これからも常に進化し続けられる、世の中の半歩先を歩く竹の職人集団でありたいと思っています。

— 一八七七 —

初代・井上定治郎により京都太秦にて竹の育成・伐採を専門とする「竹定商店」創業。

— 一九二〇 —

二代目・井上種吉が輪竹（酒樽用のタガ）の製造を開始。（その後輪竹の取引は全国に拡大し、現在では主力商品の一つ。）

— 一九六〇 —

米国の要請により輪竹の使用が禁止されたことに伴い、新たに庭園資材の製造に着手。

— 一九七四 —

資本金一千万円にて株式会社竹定商店を設立。

— 一九八五 —

四代目・井上修三が内装材製造及び京銘竹の製造開始。（当時知名度の低かった当社は、建築資材として需要が急拡大していた京銘竹を入手することができなかったため自社製造を決意。）

— その後 —

業界で先駆的であった機械の導入により生産能力が向上し、いち早く安定供給を実現、「竹業界の黒子役」としての地位を確立。

— 現　在 —

京都府内の多くの竹材店、造園業者と取引を行う。

工房内で輪竹を製造する風景　―昭和三九年七月十日　発行
淡交社刊「嵯峨野」より転載

製品
Products

日本で古きより続く竹文化によって、多種多様な竹製品が生まれてきました。竹定商店の熟練職人の技によって作り出される竹製品をご紹介します。

銘竹

京都特有の風土と文化環境の中で、名だたる銘竹の数々が生まれてきました。中でも、白竹（火焙り加工）、図面角竹、胡麻竹、亀甲竹は、京銘竹として京都府の伝統工芸品に指定されています。

A-01 真竹青竹

Madake Aodake

古く中国から伝わったとされる代表的な竹の一種。しなやかで弾力性が高いため竹籠、茶道具等の竹細工から建材まで幅広い用途に用いられます。

A-02 孟宗青竹

Mosoaodake

江戸時代に中国より伝わったとされる大型の竹。真竹よりも肉厚で大きく成長するものが多く、胡麻竹・図面竹・角竹は孟宗竹に手を加えることで生まれます。市場に出回るタケノコの多くは、孟宗竹のもの。

A-03 白竹（火焙り加工）
Shiratake (Hiaburi Kakou)

青竹を火で焙り、油を滲み出させたあと直射日光下で乾燥させた竹。白竹（湯抜き加工）と比べて、光沢が強いのが特徴で、茶道具や工芸品に多く用いられます。京銘竹の一種にも指定されています。

A-04 白竹（湯抜き加工）
Shiratake (Yunuki Kakou)

青竹を熱湯の中で煮込むことで、竹の油分を抜いたもの。最も一般的な竹材であり、多用途に使用されます。白竹は竹のありのままの美を映し出す竹とも言え、その柔らかな色合い、簡素さゆえにどのような空間にも調和します。飴色への経年変化も愛着を生む特徴です。

A-05 胡麻竹
Gomadake

表面に胡麻粒のような模様のある竹。意図的に地上六〜七メートルより上部を切り落とし、立ち枯れの状態にすることで、竹の表面に微細な黒褐色の粒が表れます。無数の胡麻粒にも見える模様は一本一本異なり、個性的な表情の竹となります。

A-06 図面竹
Zumendake

粘土やおがくず、希硫酸などを若竹の表面に塗ることで作り出される竹です。地図のように見える模様は職人が経験に基づき様々な条件を調整して行う刷毛塗りが生み出すもので、自然と職人の対話による作品とも言える竹です。

A-07 図面角竹
Zumenkakuchiku

その名が示す通り、断面が四角い竹。短く柔らかいタケノコのうちに四角い木枠をはめると、その形状に沿って成長した角のついた竹が生まれます。

A-08 黒竹
Kurochiku

成長するに従って緑色から黒褐色に変化する竹。比較的小型なものが多く、主に竹細工などの工芸品や装飾用に使用されます。

A-09 女竹
Medake

直径二センチ前後、高さ五メートル程度の小型の竹。比較的安価なため、園芸用の支柱等にしばしば用いられます。

A-10 亀甲竹
Kikkochiku

亀の甲羅を思わせる独特の形状が特徴的な竹。庭園で観賞用として重宝される他、花器などの茶道具としても楽しまれます。テレビドラマ「水戸黄門」に登場する杖としても知られています。

A-11 本煤竹
Honsusudake

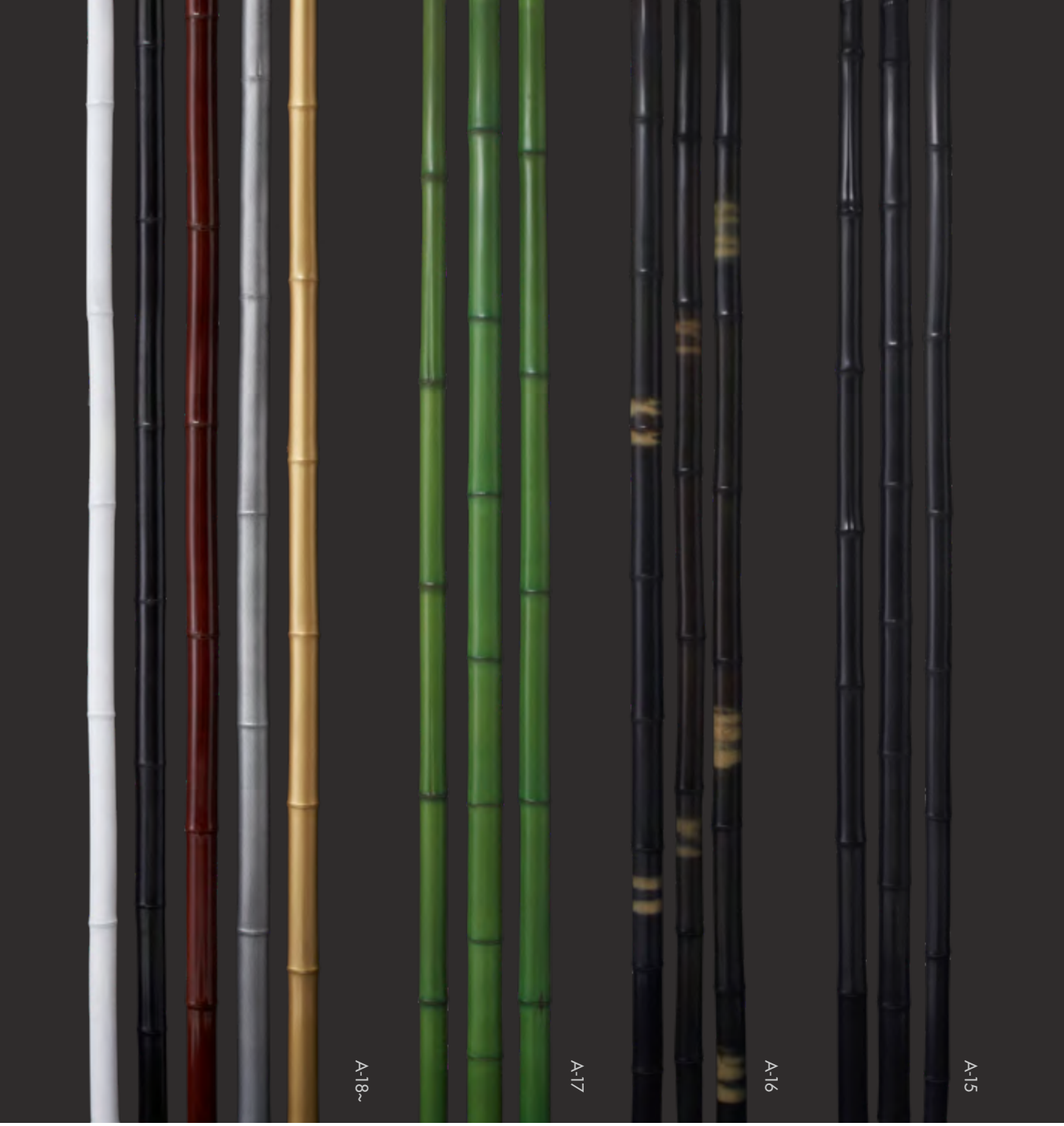
囲炉裏の煙で、百五十年以上にわたり燻され続けた竹。繰り返し煤が付着した部分は、光沢のある深い色艶の茶褐色となり、縄で括られていた部分は飴色の表面を維持したままとなります。二つとして同じものはないその濃淡や配置は世代を超えた時間が創り出す傑作と言えます。

A-13 染煤竹
Somesusudake

白竹を煤色に染色した竹。希少価値の高い煤竹に色味を似せることで、高級感を演出することができます。

A-14 染煤竹（ぼかし入り）
Somesusudake (Bokashiri)

染煤竹に、縄目のぼかしを入れたもの。ぼかしを入れることで、よりリアルに煤竹を再現することができます。



A-15 染黒竹
Somekurodake

白竹を黒く染色した竹。黒く染めることで落ち着いた雰囲気が演出できます。

A-16 染黒竹（ぼかし入り）
Somekurodake (Bokashiiri)

染黒竹に、縄目のぼかしを入れたもの。自然界には存在しない色味のため、他の竹とは一味違った見せ方が可能です。

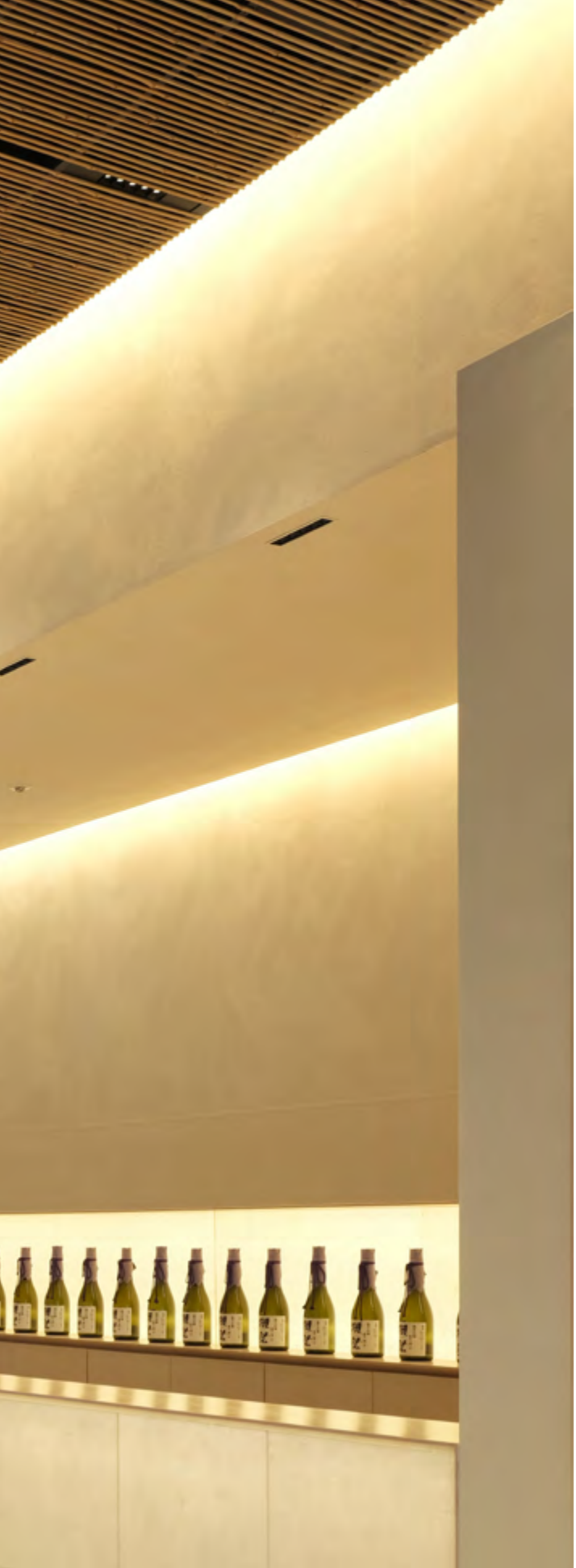
A-17 染青竹
Someaodake

白竹を青竹色に染色したもの。天然の青竹と違い、色味が退色しないためディスプレイ等で青竹の代用品として用いられます。

A-18~ 塗装竹
Tosoudake

竹の表皮をサンドブラストし、耐光性塗料を塗布した竹。染め竹と異なり耐光性が強く、屋外で使用しても変色が少ないのが特徴です。

プライスリスト　P. 01-02



平割

丸竹を幾等分に割った後、幅が均一に揃うように両端を削る加工方法。平面に近いすっきりとした印象とわずかな膨らみによる立体感がバランスよく共存し、竹垣や内装材、犬矢来など幅広い用途で使用されます。竹定商店では、幅二ミリ〜六十ミリまでの精密な加工が可能です。

B-04-05

B-04-03

B-04-01

※写真は原寸です。

B-04-01～ 白竹

Shiratake

当社は、幅2ミリから60ミリまで幅広いサイズの平割を提供しております。注文時にご希望のサイズをご指定ください。

B-05 胡麻竹
Gomadake

B-06 図面竹
Zumendake

B-11 本煤竹
Honsusudake

B-13 染煤竹
Somesusudake

B-14 染煤竹（ぼかし入り）
Somesusudake (Bokashiiri)

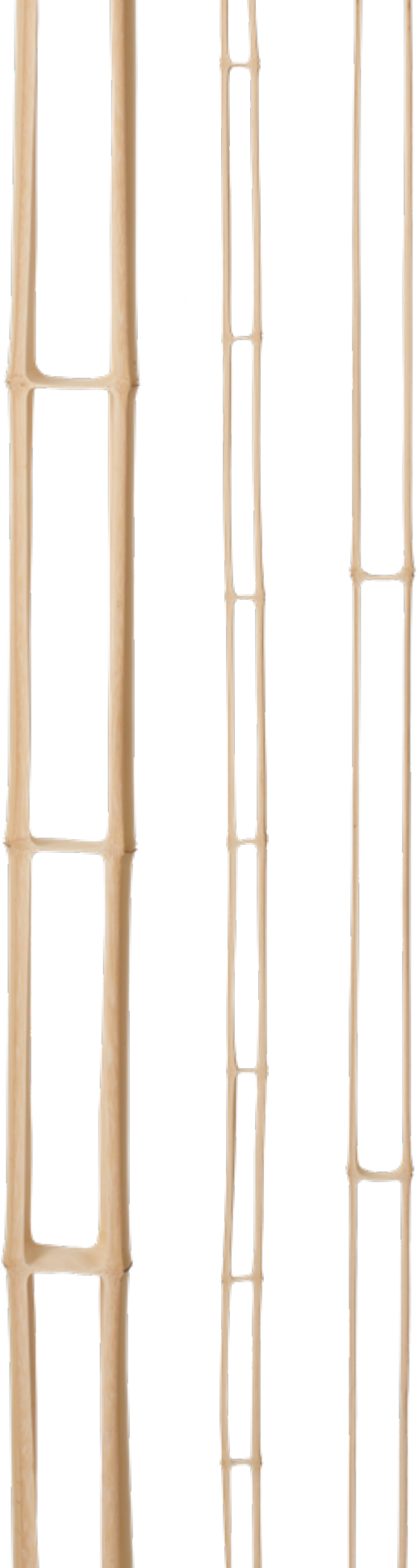
B-15 染黒竹
Somekurodake

B-16 染黒竹（ぼかし入り）
Somekurodake (Bokashiiri)

B-17 染青竹
Someaodake

柾割

丸竹の両サイドを平行に削り取ることで、竹の断面を見せる加工方法。竹の皮と断面を同時に楽しめ、軽やかな印象や節目の不規則性が創造的な空間を作り出します。



C-04 柾割

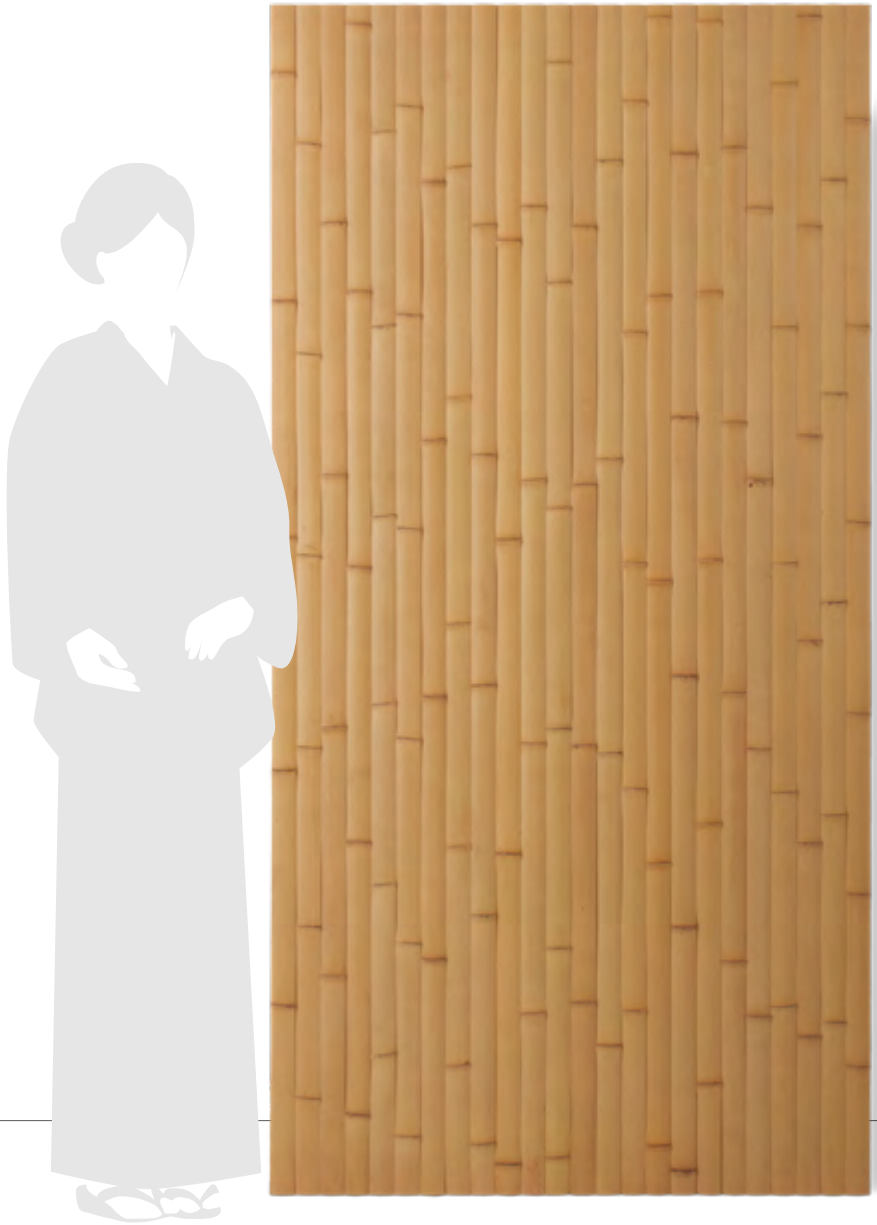
Masawari

柾割竹は、幅や厚みによって見た目の印象が変わります。大きく厚い柾割竹を使用することで力強く立体的な表現が、細く薄い柾割竹を使用することで繊細で平面的な表現が可能になります。

竹パネル

平割・半割等の割加工された竹を木製板面に並べて貼り付けたパネル。「面」として楽しむことができ、壁材・床材・天井材等広く応用されています。
竹材はあらかじめ強固に木版に貼り付けられているため、現場での高い施工性が特徴です。

平割パネル
Hirawari Panels



平割加工
Hirawari Kakou

平割加工された一本一本の竹を木製板に貼り合わせたもの。板面を施工面とし、主に数寄屋建築や京都の町家建築において使用されます。

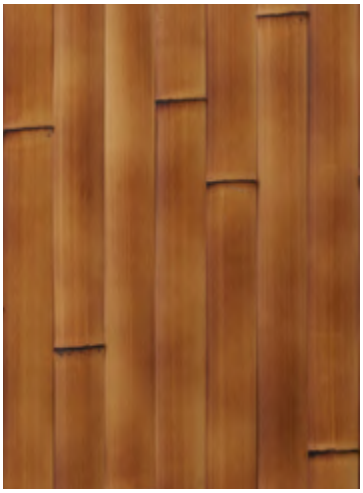
DA-06 **図面竹**
Zumendake

DA-05 **胡麻竹**
Gomadake

DA-04 **白竹**
Shiratake

DA-14 **染煤竹**（ぼかし入り）
Somesusudake (Bokashiiri)

DA-13 **染煤竹**
Somesusudake



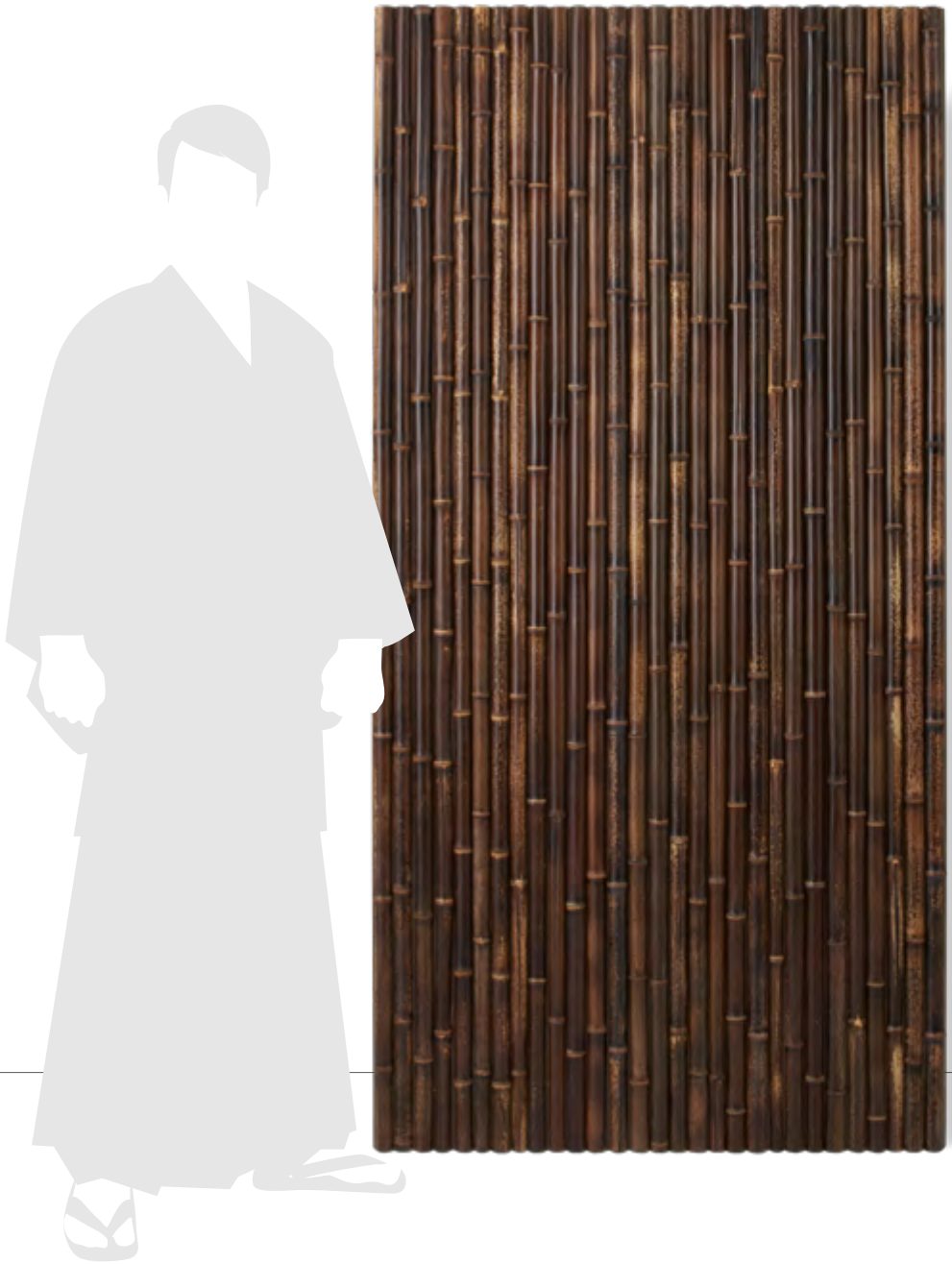
DA-12 **焼白竹**
Yakishiratake

DA-17 **染青竹**
Someaodake

DA-16 **染黒竹**（ぼかし入り）
Somekurodake (Bokashiiri)

DA-15 **染黒竹**
Somekurodake

半割パネル
Hanwari Panels



半割加工
Hanwari Kakou

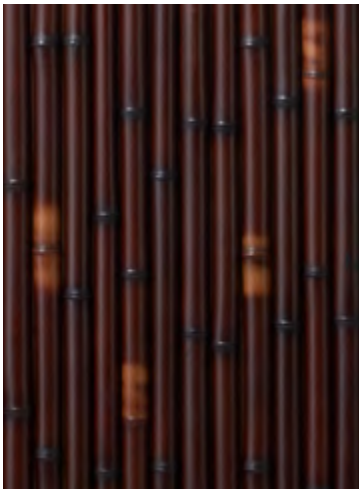
半割加工された割竹を木製板に貼り合わせたもの。平割と比べて立体的な見え方が特徴です。

半割加工（上品仕上げ）
Hanwari Kakou (Jouhinshiage)

半割加工された竹のサイドを削り落とし隙間なく貼り合わせることで、下地が見えるのを防ぐ加工方法です。

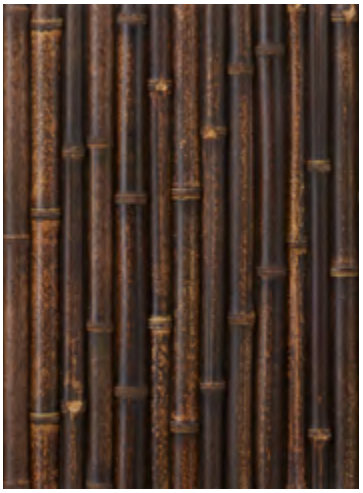
DC-04 **白竹**（上品仕上げ）
Shiratake Jouhinshiage

DB-04 **白竹**
Shriatake



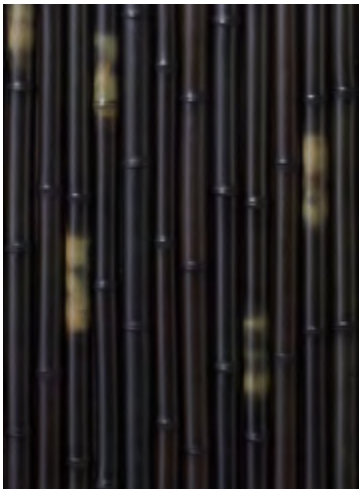
DB-14 **染煤竹**（ぼかし入り）
Somesusudake (Bokashiiri)

DB-13 **染煤竹**
Somesusudake

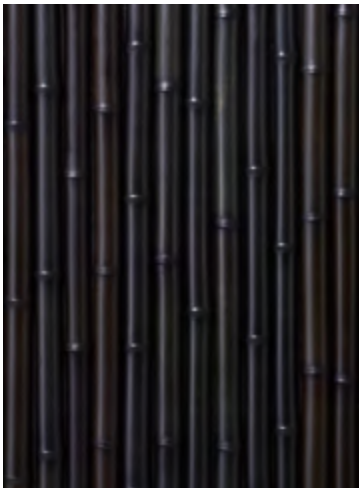


DB-08 **黒竹**
Kurochiku

DB-17 **染青竹**
Someaodake



DB-16 **染黒竹**（ぼかし入り）
Somekurodake (Bokashiiri)



DB-15 **染黒竹**
Somekurodake

ひしぎ

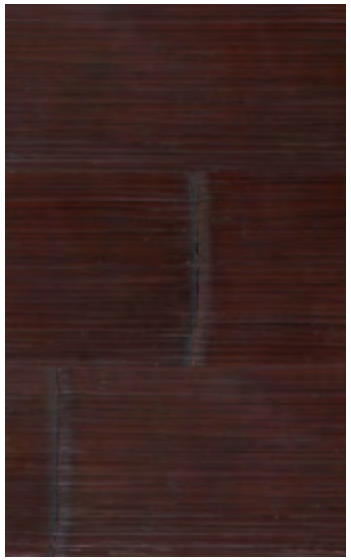
丸竹に背割を入れた後、専用の道具を用いて繊維に沿って叩くことで、板状にしたもの。主に京町屋の壁面装飾として用いられることが多く、不規則に入った割れ目が独特の雰囲気を演出します。

E-04 白竹
Shiratake

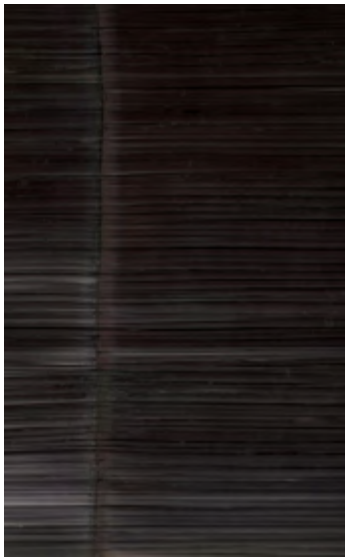
E-05 胡麻竹
Gomadake

E-06 図面竹
Zumendake

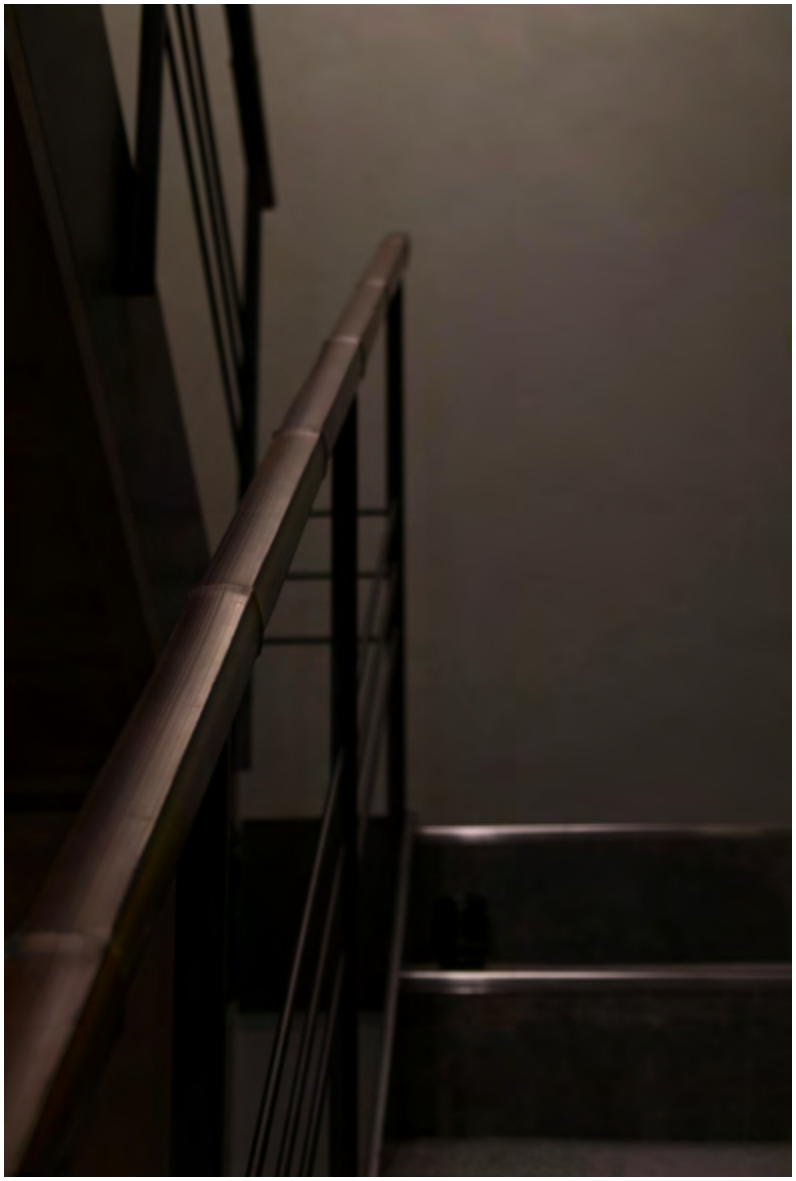
E-13 染煤竹
Somesusudake



E-15 染黒竹
Somekurodake



銘竹貼物



同一丸竹から割りとられた竹を貼り合わせたもの。節目の位置が揃っており、丸竹とは違う角ばった竹の印象が粋な空間を作り出します。

FA-06 廻縁
Mawaribuchi

FB-15 小廻縁
Komawaribuchi

FC-06 巾木
Habaki

FD-14 竿縁
Saobuchi

FE-17 平竿縁
Hirasaobuchi

FF-04 落掛
Otoshigake

FG-16 棟木
Munagi

FH-13 四方貼
Shihoubari

FI-05 コーナー
Corner

プライスリスト P. 03-04

編み

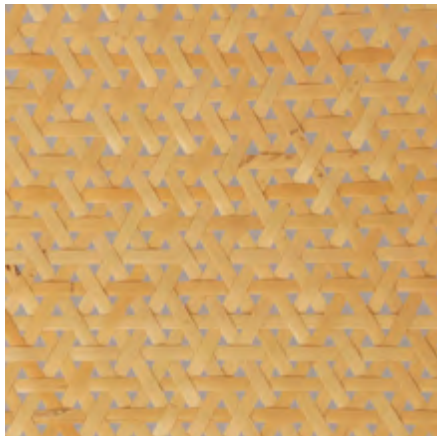
※写真は一部合成されています。

竹の表皮のみを薄く剥いだ竹ひごを幾重にも編み合わせる加工方法。伝統的に生み出された編み方は百種類以上存在し、竹籠などの工芸品から内装材・照明まで、幅広い用途で使用されています。ここで、一部紹介されるような代表的な編みを組み合わせることで、無数の表情を持つ平面・曲面を作り出すことができます。

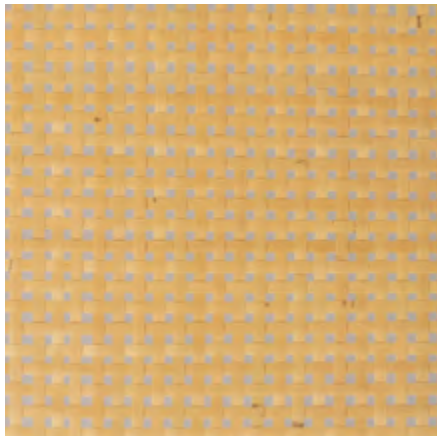
GA-04 網代
Ajiro

GB-04 鉄線
Tessen

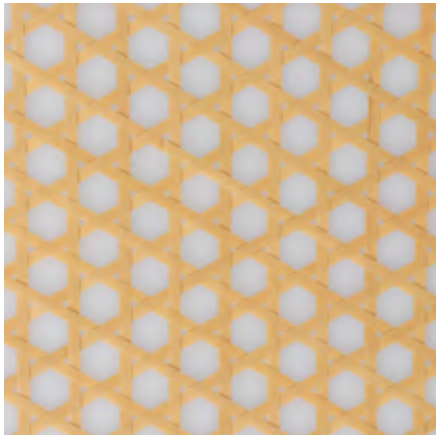
GC-04 麻の葉
Asanoha



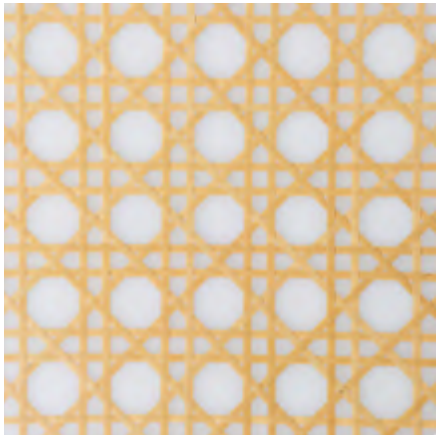
GD-04 四ツ目
Yotsume



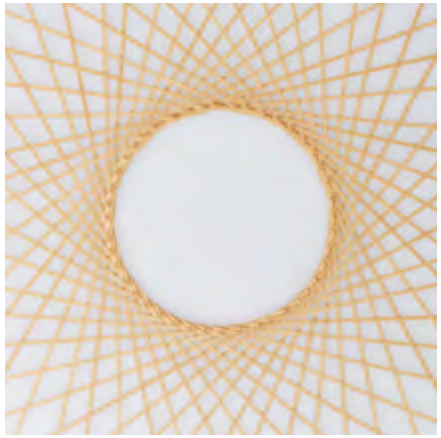
GE-04 六ツ目
Mutsume



GF-04 八ツ目
Yatsume



GG-04 輪弧
Rinko



GH-04 やたら
Yatara

犬矢来

外壁沿いに巡らされた犬矢来は京町屋の最も大きな特徴の一つです。外壁を泥汚れや犬の小便などから守るための機能的な造形物は、京都人の感性により高い審美性を持つ装飾として受け継がれています。

H-01 青竹犬矢来
Aodake Inuyarai

H-01-1 真鍮釘
Shinchuukugi

概観が美しいため装飾用として使われることが多く、また錆に強いことも特徴です。

H-01-2 替折釘
Kaiorekugi

和釘の一種。寺社仏閣や町家に多く用いられ、打ち付けた際に出る頭が特徴的な釘です。

H-03 白竹犬矢来
Shiratake Inuyarai

H-05 胡麻竹犬矢来
Gomadake Inuyarai

竹垣

何百年の時を経て完成された伝統の奥深さ。年月と共に色艶が変化する様。和の演出に欠かせない存在として庭園だけでなく料亭・旅館等の装飾用にも広く利用されています。いつの時代も変わることない竹垣の魅力をお楽しみください。

大垣 Oogaki

IA-01 青竹建仁寺垣
Aodake Kenninjigaki

京都・建仁寺で最初に作られたと伝えられる竹垣。垂直に並んだ割竹を竹の押縁で固定した構造の竹垣で、遮蔽垣として最も一般的な垣です。

IA-04 白竹建仁寺垣
Shiratake Kenninjigaki

白竹を用いた建仁寺垣。すでに色を抜いているため変色が少ないのが特徴です。

IB-25 竹枝穂垣

Takeedahogaki

竹の枝を用いた遮蔽垣。竹穂の動きを利用した流れるような意匠が特徴です。

IB-26 萩穂垣

Hagihogaki

萩穂を用いた遮蔽垣。作り方は竹枝穂垣と同じですが、萩穂垣は整然とまっすぐに並んでいるのが特徴です。

IC-25 枝離宮垣

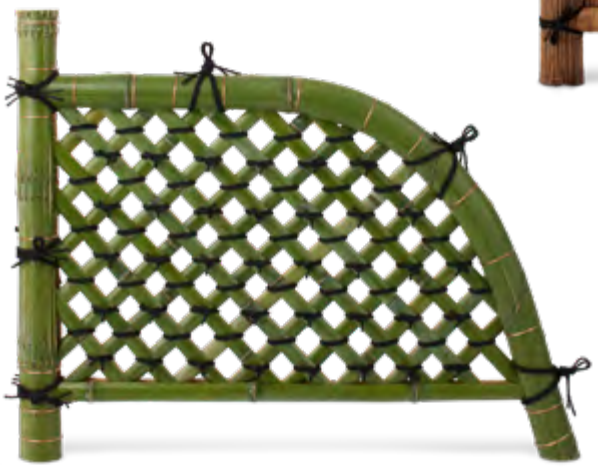
Edarikyugaki

竹穂を用いた竹垣の一種で、桂離宮のものが原型です。竹穂を密に横に並べ、これを太い割竹の押縁で押えた構造の竹垣。整然とした組子の美しさが特徴です。

袖垣 Sodegaki

JA-26 萩玉袖垣
Hagitamasodegaki

白竹の代わりに萩穂を用いた玉袖垣。萩穂に替えることで、より落ち着いた雰囲気を演出します。



JA-04 白竹玉袖垣
Shiratake Tamasodegaki

一方の角に丸みをもたせた袖垣。振袖のたもとの優美な丸みを想わせる柔らかい曲線が特徴です。

JB-04 白竹光悦寺垣
Shiratake Kouetsujigaki

青竹の代わりに白竹を用いた光悦寺垣。すでに色抜きを行なっているため変色が少ないのが特徴です。

JB-01 青竹光悦寺垣
Aodake Kouetsujigaki

京都 光悦寺のものを原型とする袖垣の一種。大胆な曲線の美しさが、この垣の見所です。

JC-25 竹枝穂垣
Takeedahogaki

竹穂を用いた袖垣。竹穂の動きを利用した流れるような意匠が特徴です。

JD-26 萩松明垣
Hagi Taimatsugaki

萩を束ねた松明を重なり合わせて並べた袖垣。立体的な造形がこの垣の特徴です。

JE-05 胡麻竹離宮垣
Gomadake Rikyugaki

組子に胡麻竹を用いた変形離宮垣。胡麻竹を用いることで、どっしりとした雰囲気にかわります。

JF-06 西山垣
Nishiyamagaki

図面竹の骨組みに黒穂を設えた袖垣。

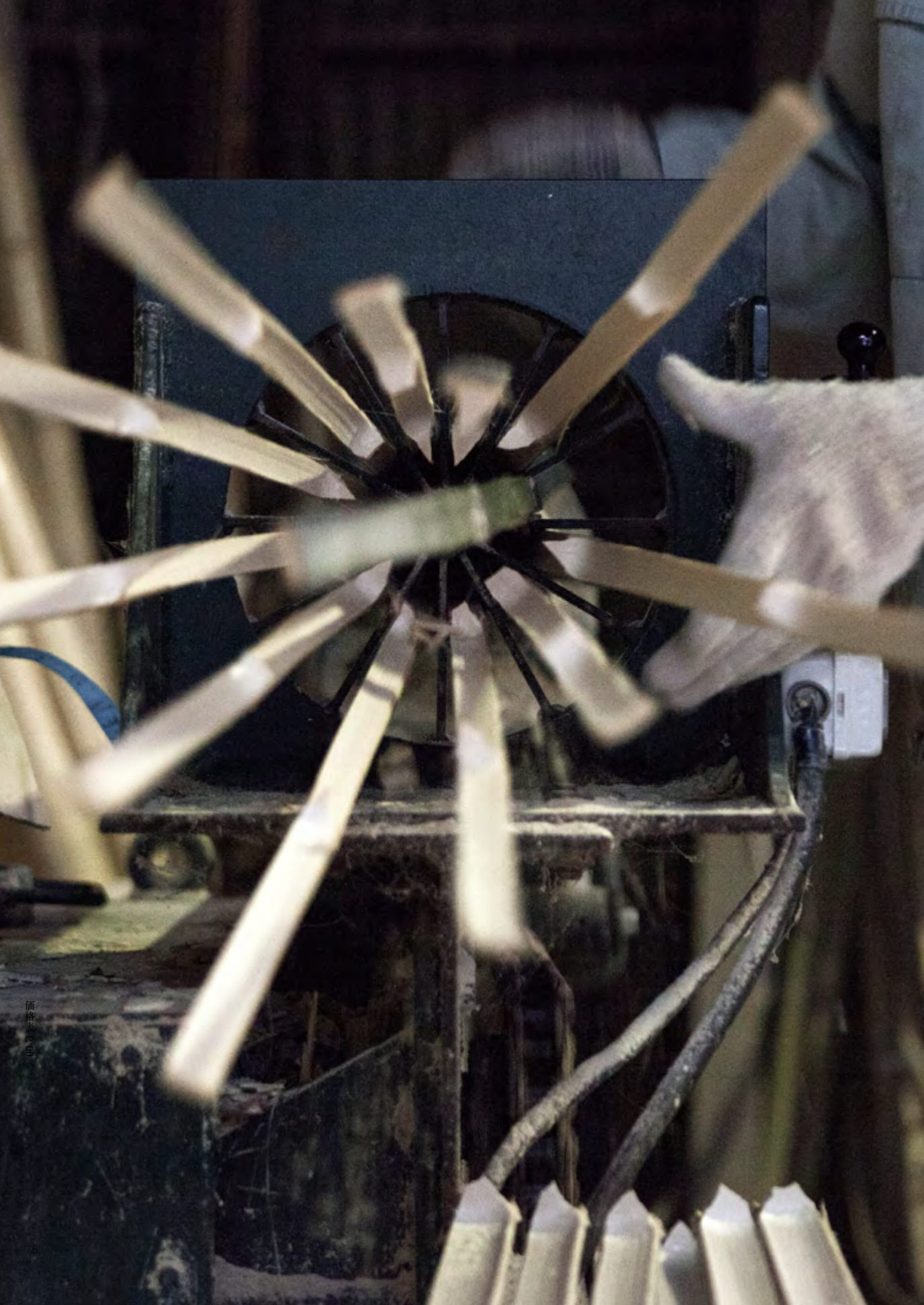
JG-04 矢止垣
Yadomegaki

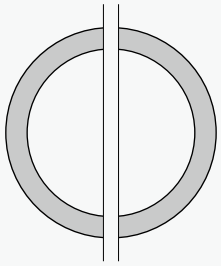
立子に矢竹を用いたシンプルな袖垣。整然と並ぶ矢竹がすっきりとした印象を与えます。

加工技術

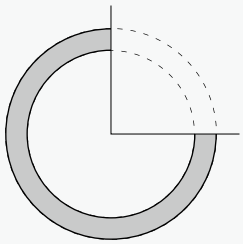
Processing Techniques

高い強度を誇りながら、しなやかな弾力性も併せ持つ不思議な素材、竹。熟練の手を加えることで多種多様なかたちに生まれ変わり、建築用途から日用品まで様々な場面で活躍します。竹定商店の職人が約百四十年にわたり培ってきた、竹の可能性を無限に広げる加工技術の一部をご紹介します。
これらの他にも様々な加工が可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

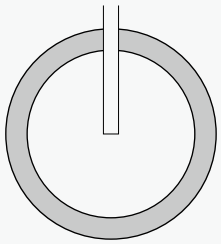




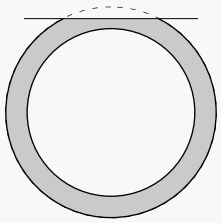
01



02



03



04

01 —— 半割
Hanwari

丸竹を2等分に割る加工方法。主に内装や竹垣の押縁に使用されます。

02 —— 四分の一カット
Yonbunnoichi Cut

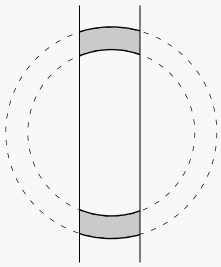
丸竹を断面にして90度分切り取る加工方法。主に出隅などコーナー部分の目隠しとして用いられます。

03 —— 背割
Sewari

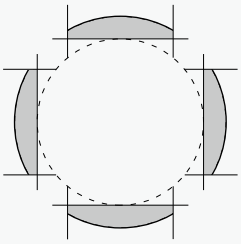
丸竹の目立たない箇所にあらかじめ切れ込みを施す加工方法。切れ込みを入れることで環境変化により起こりうる竹のヒビ割れを防止します。

04 —— 裏削り
Urakezuri

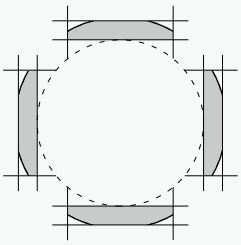
丸竹の一方を平面に削り落とす加工方法。竹本来のボリュームを保ちながら施工性を高めます。



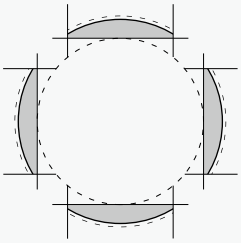
05



06



07



08

05 —— 柾割
Masawari

丸竹の両側を平行に割取る加工方法。竹の内面の美しさや節の不規則性を見せることで竹の新たな一面を引き出しています。

06 —— 平割
Hirawari

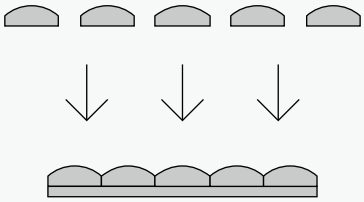
丸竹を割った後、幅が均一に揃うように両端を削る加工方法。竹垣や内装材等幅広い用途で使用されます。

07 —— 面皮削り
Menpikezuri

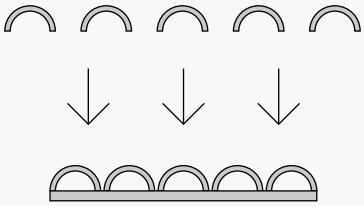
平割加工した竹の中央部分を平面に削り取る加工方法。繊維部分と表皮部分のコントラストが独特の空間を作り出します。

08 —— 表皮削り
Hyohikezuri

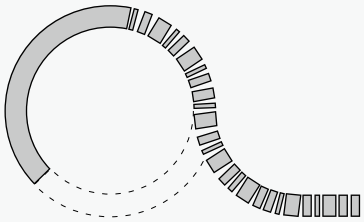
平割加工した竹の表皮を全て削り取る加工方法。竹の繊維による独特のテクスチャーを楽しめます。



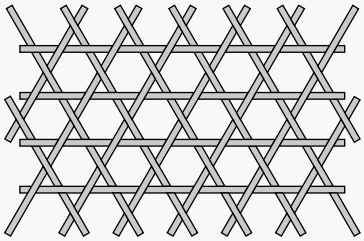
09



10



11



12

09 —— 平面貼（平割）
Heimenbari (Hirawari)

平割加工された竹を木製板に貼り合わせる加工方法。主に壁面装飾材として使用されます。

10 —— 平面貼（半割）
Heimenbari (Hanwari)

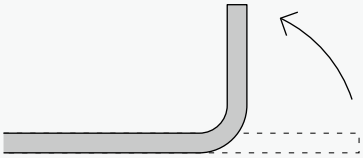
半割加工された竹を木製板に貼り合わせる加工方法。平割と比較して、竹本来の立体感を演出できるのが特徴です。

11 —— ひしぎ
Hishigi

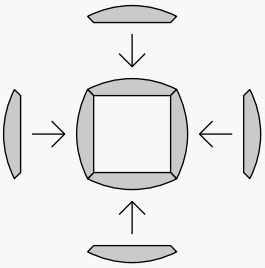
専用の道具を用いて、丸竹を叩いて板状にする加工方法。不規則に入ったヒビが独特の雰囲気を演出します。

12 —— 編み
Ami

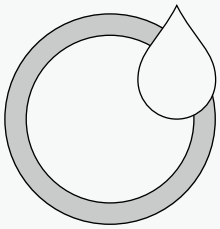
竹の表皮のみを薄く剥いだ竹ひごを幾重にも編み合わせる加工方法。伝統的に生み出された編み方は百種類以上存在し、竹籠などの工芸品から内装材・照明まで、幅広い用途で使用されています。



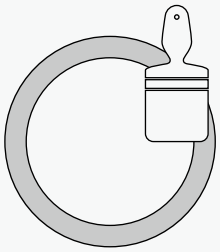
13



14



15



16

13 —— 曲げ
Mage

竹の繊維は熱を加えることで柔軟性が高まり、曲げ加工を施すことが可能となります。茶杓から袖垣まで様々な製品に曲げ加工が用いられます。

14 —— 立体貼
Rittaibari

平割加工された竹を四角く貼り合わせたもの。主に天井の竿縁や棟木として使用されます。

15 —— 染め
Some

お湯と塩基性染料を入れた窯の中で白竹を染めつける加工方法。煤色や青竹色が代表的です。

16 —— 塗り
Nuri

竹の表皮をサンドブラストし、耐光性塗料を塗ったもの。金銀等の染め加工では表現できない色合いや、外部で使用しても変色が少ないのが特徴です。

Catalog & Concept Book Vol. 1
2018/08　発行

企画 ―――――― 株式会社竹定商店

アートディレクション・ブックデザイン　オリバー・フランツ (silent.)
編集アドバイザー ―― 小西 友紀子 (Artbook Eureka)

発行所 ―――――― 株式会社竹定商店
〒六一六ー八一六四　京都市右京区太秦桂木町六
TEL : 075-861-1712
FAX : 075-861-0200

印刷・製本 ―――― アサヒ精版印刷株式会社

© Takesada Shoten Co.,Ltd.
2018 Printed in Japan

注意事項について

／／価格について
プライスリストの表示価格には、送料および消費税は含まれていません。

／／仕様について
価格、デザイン等を予告なく変更することがあります。

／／サイズについて
天然素材を使用しているため実際のサイズは表示サイズと多少の誤差が生じる場合があります。

／／色調、模様について
天然素材を使用しているため実際の商品とカタログ写真とは、多少異なります。

／／商品の特徴について
天然素材のため、使用環境や経年変化によりヒビ割れ、虫害等が発生する場合があります。

／／その他
本誌に掲載されるすべての情報、写真等の無断転載、複写、複製を禁じます。

あらかじめご了承ください。

竹定商店

〒六一六-八一六四 京都市右京区太秦桂木町六
6 Katsuragicho, Uzumasa, Ukyoku
Kyoto, Japan 616-8164

Takesada Shoten Co., Ltd.
株式会社 **竹定商店**

T: 075 861 1712 info@takesada-shoten.co.jp
F: 075 861 0200 www.takesada-shoten.co.jp